

世界が注目する 2002 年生まれの作曲家・梅本佑利がホールコンポーザーに。 気鋭の音楽家たちと届ける新境地の音楽

横浜みなとみらいホールでは新たにコンポーザー制度を立ち上げ、若手作曲家と 2 年の事業に取り組みます。2025～2027 年の期間は、2002 年生まれで、国内各地やヨーロッパ圏の音楽祭等から作品委嘱を受ける注目の作曲家・梅本佑利を迎えます。

9 月 11 日の公演では、辻 彩奈(ヴァイオリン)、山澤 慧(チェロ)、高橋優介(ピアノ)、今井慎太郎(エレクトロニクス)ら気鋭の音楽家たちが登場。新作および梅本がキュレーションした作品を披露します。

国内で初めて梅本佑利の世界を本格的に紹介する本公演。その歴史的瞬間を目撃し、デジタル時代における多様な音楽表現の一端をご体感ください。



©2024 Sophia Hegewald

■公演概要

名 称 横浜みなとみらいホール コンポーザー2025-2027

梅本佑利 音 MAD～デジタル・マキシマリズムと音楽～

会 場 横浜みなとみらいホール 小ホール

日 時 2025 年 9 月 11 日(木) 19:00 開演(18:30 開場)

出演者 辻 彩奈(ヴァイオリン)、山澤 慧(チェロ)、高橋優介(ピアノ)、今井慎太郎(エレクトロニクス)

曲 目 梅本佑利: look at me, senpai (2024) for violin, cello and fixed media

梅本佑利: 萌え²少女 (2022) for cello and fixed media

梅本佑利: スーパーバツハボーイ (2020) for cello

梅本佑利: Heidenröslein (2025) for piano and fixed media (日本初演、ピアノ版: 世界初演)

梅本佑利: New Piece (2025) for piano and fixed media (本公演委嘱作品 世界初演)

梅本佑利: New Piece (2025) for violin, cello and fixed media (本公演委嘱作品 世界初演)

ベン・ノブトウ: LUCID for piano and electronics (2020)

ヤズ・ランカスター: Monroe Park (2021)

エマ・オハロラン: To turn in Circles (2021)

マティアス・クラネビッター: pitch study no. 1 - contra violin (2016)

for violin, 2-channel-playback

山根明季子: 状態 No. 2

料 金 全席指定 一般 3,000 円、65 歳以上の方・大学生・障がい者手帳をお持ちの方: 2,500 円

高校生以下 2,000 円

申 込 横浜みなとみらいホールチケットセンター

☎045(682)2000 (電話 10:00-17:00/窓口 11:00-19:00 ※休館日・保守点検日除く)

主催=横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

助成=公益財団法人かけはし芸術文化振興財団、文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業

[地域の中核劇場・音楽堂等活性化]) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

※本公演の取材・情報掲載をお願い申し上げます。情報掲載の際はお手数ですが事前にご一報ください。

このプレスリリースに関するお問合せ *本日は 17:15 まで在席しております。

横浜みなとみらいホール (公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

〒220-0012 横浜市内西区みなとみらい 2-3-6 ☎代表: 045(682)2020(9:00-18:00)/広報直通: 045(682)2025 pr_mmh@yaf.or.jp

広報担当: 藤井聡子、飯島玲名、松本 董 事業担当: 中村康裕

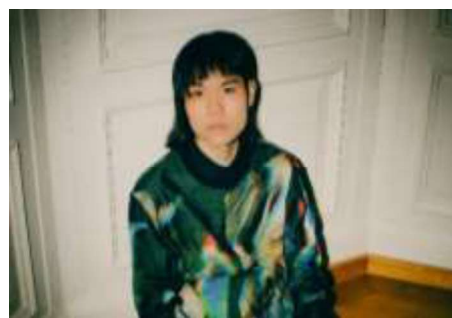
本公演の注目ポイント

1. 世界が将来を嘱望する作曲家・梅本佑利がホールコンポーザーに

横浜みなとみらいホールでは、同時代音楽の魅力の発信と若手作曲家発掘の場の創出を目的に、新たにコンポーザー制度を開始しました。2025年度からは、2002年生まれで現在、愛知県芸術大学音楽家作曲専攻に在学する**梅本佑利**を迎えます。

幼少期より教会で聖歌や合唱に親しむ一方、秋葉原の電気街で“オタクカルチャー”の影響を受けながら育った梅本は、ゲーム音楽の効果音とアコースティック楽器を融合させたライブ・エレクトロニクスや、アニメキャラクターのボイスサンプリングによるフィクストメディア(Fixed Media)と楽器の生演奏を同期させる手法など、自身のアイデンティティを反映させた複層的な作風が特徴です。**2024年11月には、横浜みなとみらいホールと共に作曲家・本田祐也の楽曲再演プロジェクト「埋立地での音楽 汽船道パレード ー本田祐也と梅本佑利ー」に取り組み、梅本による編曲・作曲作品を若手音楽家らがみなとみらいの街をパレードで練り歩きながら演奏するスタイルで披露し、注目を集めました。**

本公演では、「**デジタル・マキシマリズムと音楽**」をテーマに、新作委嘱作品と梅本がキュレーションした多様な音楽作品をお贈りします。デジタルメディアが持つ圧倒的な情報量やエネルギーを音楽に落とし込んだ刺激的な音楽体験となることでしょう。梅本佑利が創り出す世界観にご期待ください。



梅本佑利 ©2024 Sophia Hegewald



「埋立地での音楽 汽船道パレード」より ©藤本史昭

2. 現代音楽にも意欲的な気鋭の音楽家が集結

本公演で梅本が手掛ける作品を演奏するのは、**辻 彩奈(ヴァイオリン)**、**山澤 慧(チェロ)**、**高橋優介(ピアノ)**、**今井慎太郎(エレクトロニクス)**の4名。

ヴァイオリンの辻とピアノの高橋は梅本と本公演で初めてタッグを組みます。現代音楽の演奏を積極的に行う**チェロの山澤**は、過去に梅本への委嘱も複数回行う間柄。2024年の本田祐也の楽曲再演プロジェクトにも登場しました。このクラシック音楽にも造詣の深い3名の音楽家に、自身でもプログラミングを用いたコンピュータ音楽の制作を行う**エレクトロニクスの今井**が加わります。

本公演では、ヴァイオリン／チェロ、およびヴァイオリン／ピアノとエレクトロニクスによる梅本の新作初演、そして**梅本の代表作《スーパーバッドボーイ》**をはじめとする既存の作品のほか、山根明季子らの多様な音楽作品をキュレーションし披露します。

各々が作曲や現代作品の演奏にも積極的に取り組む4名によるこの日限りのパフォーマンスをお楽しみください。



(左上) 辻 彩奈 ©Makoto Kamiya

(右上) 山澤 慧

(左下) 高橋優介 ©AyaneShindo

(右下) 今井慎太郎